

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月25日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0770700417		
法人名	社会福祉法人 篤心会		
事業所名	社会福祉法人 篤心会 エルピスホーム		
所在地	福島県須賀川市和田字沓掛48-1 (電話)0248-76-6660		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年8月9日	評価確定日	平成19年9月28日

### 【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	22人	常勤19人, 非常勤3人, 常勤換算2.1人	

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り	造り	平屋建て
	1階建ての		1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,350円		

#### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2		3名	
要介護3	8名	要介護4		3名	
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 82.1歳	最低	72歳	最高	102歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 平心会 須賀川病院
---------	----------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は、職場という意識でなく利用者と共に暮らすパートナーとして考えており、利用者と言いたい事が言える人間関係が築かれている。職員は、利用者が何をしたいのか、何をしてもらいたいのか、常に利用者の顔を見てケアにあたっている。併設の特別養護老人ホームとの連携によるケア体制、協力病院との連携による医療体制は利用者、家族に安心感を与えている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題なし
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全員で取り組み、外部評価の結果を受けて職員で話し合い、改善計画シートを作成し、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況を報告し、意見をもらうようにしているが、報告や意見交換にとどまっている。外部評価の効果をもっと高めるために、取り組みや改善経過のモニタ-役として運営推進会議を活用することを検討してほしい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	契約時に、ホーム担当者、第三者委員でも相談、苦情を受け付けることを説明している。家族には面会時、家族会等で何でも話していただけるような雰囲気づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市広報等から地域情報を集め、地域行事に参加している。また町内会、地区交通安全協会に加入し、地域住民との交流に努めている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「家庭、地域社会との連携を大切に暖かい家庭的環境を築きます」を理念に掲げ、地域密着型サービスの意義を全職員で確認している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時に理念を唱和し、理念の中にある「入居者の安全を守り人権を尊重する」ことについて、全職員からレポートを提出してもらうなど意識づけがされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市広報等から地域情報を集め、地域行事に参加している。また町内会や地区交通安全協会に加入し、地域住民との交流に取り組んでいる。		町内会の行事に参加するまでに至っていないので、ホ-ム側から町内会に働きかけ、総会、地域活動に参加するようにしてほしい。また、運営推進会議に町内会役員に参加していただけるよう検討してほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み、外部評価結果を受けて職員で話し合い、改善計画シートを作成し、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者やサ-ビスの実態、評価への取り組み状況を報告し、意見をもらうようにしているが、報告や情報交換にとどまっている。</p>		<p>外部評価の効果をより高めるために、取り組みや改善経過のモニター役として運営推進会議を活用することについて検討してほしい。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回「家族通信」を発行し、家族等の来訪時や電話連絡により暮らしぶりや健康状態等を報告している。預かり金の管理については、利用料請求時に金銭出納簿、領収書を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に、ホ-ム担当者、第三者委員でも相談、苦情を受け付けることを説明している。家族には面会時、家族会等で何でも話していただけるような雰囲気作りに努めている。また、ホ-ム内に意見箱を設置している。</p>		<p>家族等は、意見や不満、苦情を言い出しにくいことを理解し、今後家族会では、職員は席をはずし家族同士で話合ってもらう時間をとるなど検討してほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が産休、育休等で長期に休む場合や退職する場合は、計画的に引き継ぎ時間が取れるよう配慮し、利用者へのダメージを少なくするようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加出来るように努めている。外部研修に参加した場合は研修報告書の提出、報告会を実施している。また、内部研修を毎月1回開催している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加している。自主的に立ち上げた地域の認知症ネットワークに参加し具体的な活動を始めようとしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に暮らすパートナーとしてどうあるべきかを考え、ケアにあたっている。利用者から料理や行事(団子さし等)の由来を教えてもらったりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや暮らし方の希望、意見を把握するよう努めている。意思疎通が困難な方には、日々の行動や表情から汲み取るようにしている。これらは個人記録に記入し共有化をはかっている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居希望者にはホ-ムを見学してもらうようにしている。アセスメント、利用者、家族の意向等を踏まえ、1ヶ月の暫定プランを作成する。経過観察の後、担当者会議(計画作成担当者、介護職員、看護職員等)で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しがされている。状態変化による見直しとともに、1ヶ月に1回全体ミ-テングで職員の情報や気づきを集めて現状に即した介護計画の作成に努めている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の継続について説明している(継続されている方2名)。受診にあたっての情報の共有化もなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応する「看取りの指針」があり、家族に説明するとともに、職員にも周知している。重度化に向けた介護法について勉強会を行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法等の内容について全職員に周知し、誓約書を提出させている。利用者への関わりについては管理者等が日常的に確認するとともに、接遇委員会を中心に、月目標の設定、取り組みの反省を行い、プライバシーの確保に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、外出、入浴、就寝など一人ひとりのペースに合わせた対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好、希望、旬の食材を取り入れた献立を工夫している。食事の一連の作業も利用者にできるだけ一緒にやってもらうようにし、職員も一緒に食事を食べ、利用者の状況に応じた支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた入浴ができるよう職員のロ-テーションを工夫し、入浴日、時間帯は利用者の希望に合わせた入浴を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者に食事作り、おしぼりたたみ、花の水遣り、清掃など出来る事をお願いしている。外食やドライブ、地域行事への参加など楽しみごとの機会を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	前もって計画するより、利用者の希望や天候に応じて、ドライブ、買い物、外食など外に出かける機会を作っている。外出困難な方にも車椅子での散歩をするなど配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の思いを尊重し、職員による見守りの徹底や職員間で携帯電話による連携を行いながら、鍵をかけないケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定での避難訓練を実施している。火災に関しては防災委員会を中心に月1回、通報、消火、避難等について防災訓練を実施している。		地域の方に災害の際の協力を要請しているが、地域住民参加による防災訓練を行うよう検討してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は個人毎に記録し、おおまかに把握している。また、併設している特別養護老人ホームの管理栄養士の指導を受けている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境に配慮しながら、ホ-ル内に生け花を飾ったり、金魚鉢を置いたりして季節に応じた装飾に配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物の持ち込みについて継続的に家族に協力依頼を行っている。居室には家族の写真、アルバムや華道・茶道具、布団等が持ち込まれ安心して過ごせるよう配慮している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	エルピスホーム
記入担当者名	古川 君江

評価結果に対する事業所の意見
特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。